年間授業計画　様式

高等学校 令和７年度（２学年用） 教科　国語　科目　論理国語

教　科：　国語　　科　目：　論理国語　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　5 組

教科担当者：（１組：　中西　）（２組：　眞々田　）（３組：　眞々田　）（４組：　中西　）（５組：　中西　）（　組：　　）

使用教科書：（ 新編論理国語　東京書籍　　）

教科　国語　　指導の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目　論理国語　　指導の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	書	読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	『「ふしぎ」ということ』 ・挙げられている話題を関連づけて読み取り，「ふしぎ」ということについて考えを深める。 ・「接続関係」について学び，文章を論理的に理解する力を養う。 ・資料を集めてさまざまな観点から整理し，テーマを吟味する。	・本文を通読し，子供の頃「ふしぎ」に思ったことを発表する ・本文の三つの部分で取り上げている事柄や問題についてまとめる。 ・子供の説明が「物語」に直結しているということについて理解する ・「自然科学」の方法と「物語」の違いについて理解する。 ・本文の要旨をまとめる。	○		○	［知技］ ・言葉には，言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などを的確に捉え，論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において，人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めている。 ［主］積極的に具体例を通して筆者が述べようとしている考えを読み取り，学習課題に沿って筆者の考える「物語」の捉え方を理解しようとしている。	○	○	○	10
	論理とは何か ・書かれている内容を理解し，「論理的」とはどういうことかを学ぶ。	・狭い意味での論理について，【例１】から「演繹」という推論の仕方を理解する。 ・広い意味での論理について，【問１】の文章から考え，「論理的」であることの意味を解説とともに確認する。			○	［知技］ ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し，文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において，文章の構成や論理の展開，表現の仕方について，書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ［主］進んで演繹的な推論について理解し，学習課題に沿って広い意味での「論理」における言葉の関連性や文章構造について捉えようとしている。	○	○		3
	定期考査						○	○		1
	読む 『少女たちの「ひろしま」』 ・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし，時代や社会について考える態度を養う。	・三つに分かれたそれぞれの部分の話題に注意しながら，本文を通読する。 ・筆者の認識の変化が最もよく示されている部分を捉え，指摘する。 ・筆者が美しいと感じた石内都の写真集の特徴と，「洋服たち」に対す				［知技］ ・言葉には，言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊か				

		異業の特徴と，「体験たち」に対する視点を捉える。 ・被爆死した女性たちと筆者をつなぐ「回路」の意味を捉える。	○	○	○	く使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，資料との関係を把握し，内容や構成を的確に捉えている。 ・「読むこと」において，文章の構成や論理の展開，表現の仕方について，書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・「読むこと」において，人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めている。 ［主］粘り強く筆者独自の「視点」を理解し，今までの学習を生かして戦時下の人々の日常と自分との接点について，考えを深めようとしている。	○	○	○	10
	要約する力 ・「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し，適切に要約する力を養う。	・文章の「幹」（中心的主張）と，「枝葉」（読ませる工夫・分かりやすくする工夫・根拠を示す「太い枝」）という構造を理解する。 ・文章を「根」（問い）と答えの構造を持つものと捉えることを理解し、【問７】の要約作業を通して，文章構造への理解を深める。 ・「要約するための五つのステップ」を読み，要約する手順とポイントを理解する。		○		［知技］ ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などを的確に捉え，論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において，文章の構成や論理の展開，表現の仕方について，書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ［主］進んで論理的な文章の構造を理解し，学習課題に沿って中心的主張を捉えた要約の方法を理解しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
2学期	『楽に働くこと，楽しく働くこと』 ・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	・本文に述べられている「楽に働くこと」と「楽しく働くこと」の違いに注目しながら，本文を通読する。（手引き１） ・本文について，「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考える。 ・「工場のものづくり」がどのようなものかを理解し，近代工場での労働の「楽さ」と「楽しさ」についてまとめる。 ・内山節と白鷹幸伯の著作について書かれた内容を整理し，筆者がこの二冊を薦める理由を理解する。 ・本文を読んで「働くよろこび」について考えたことを話し合う。	○		○	［知技］ ・言葉には，言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などを的確に捉え，論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，資料との関係を把握し，内容や構成を的確に捉えている。 ・「読むこと」において，関連する文章や資料を基に，書き手の立場や目的を考えながら，内容の解釈を深めている。 ［主］進んで「楽しく働くこと」について，それぞれの文章の筆者の立場に基づく考えを，学習課題に沿って理解し，「働くよろこび」について自分の考えをまとめ,話し合おうとしている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	『複数の「わたし」』 ・文章に示された考え方を手がかりに，「わたし」の捉え方について理解を深める。 ・読書を通じてさまざまな学問の考え方を知り，視野を広げる。	・「私たちは，常に複数の役割を持って生きています。」とは，どのようなことか読み取る。 ・「誰とも関係を結ばない『わたし』が，本当の『わたし』といえるのか」という筆者の問いに対して，ここまで読み取ったことを踏まえて自分の考えをまとめる。 ・「近代の個人主義的な人間観」とは，どのようなものか，読み取る。 ・「小説家の平野啓一郎」と「英語の『個人individual』」の例によって示される「分人」の概念について理解する。 ・「いっぱいの人々の人格」とは				［知技］ ・言葉には，言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などを的確に				

		・「ハーグンの人々の人格」とは，どのようなものか，読み取る。 ・「ブタを飼育した女性の労働に目を向けてこなかった」という批判に対して，ストラザーンはどのように反論しているか，「根拠」の接続表現を用いてまとめる。 ・「別の『わたし』」が「他者によって引き出される」とは，どのようなことか，読み取る。 「そう捉えると，少し気が楽になりませんか。」とあるが，筆者がそのように言うのはなぜか読み取り，まとめる。	○		○	えて，内容や構成，論理の展開などを的確に捉え，論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において，主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し，文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・「読むこと」において，設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に，必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］粘り強く筆者の挙げる考え方や事例が示すことを読み取り，学習課題に沿って筆者の言う「わたし」の捉え方について理解し，「わたし」に対する見方を広げようとしている。	○	○	○	10
	仮説を立てて検証しよう ・仮説を立てて検証し，検証過程を文章にまとめる。	・「学習の流れ」を読み，活動のポイントの見通しを持つ。 ・「高校生の読書」について仮説を立てて検証し，検証の過程を文章にまとめた例を参考に，学習の進め方を理解する。	○	○		［知技］ ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めている。 ［思判表］ ・「書くこと」において，実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について，書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集，整理して，目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・「書くこと」において，多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり，根拠や論拠の吟味を重ねたりして，主張を明確にしている。 ・「書くこと」において，個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど，文章全体の論理の明晰さを確かめ，自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。	○	○		5
	定期考査						○	○		1
3学期	『学ぶことと人間の知恵』 ・文のつながりに着目して主張を読み取り，人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。	・「コンピューター」と「人間」の違いに注意しながら,本文を通読する。 ・本文の中心的な「問い」を端的に表現している一文と，その問いを詳しく表現し直している一文をそれぞれ指摘する。 ・「忘却」という人間特有の能力の長所と短所を読み取り,確認する。 ・勉強しても忘れてしまうにもかわらず,筆者が「学ぶことは，結果として無駄にはならない」と述べる理由を読み取り,まとめる。 ・人間の脳のみが持っている「ゆとり」とは，頭脳のどのような状態のことを言うのかを読み取り,まとめる。 ・人間の頭脳にある「寛容性」とはどのようなものであるかを読み取り,まとめる。	○		○	［知技］ ・言葉には，言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ［思判表］ ・「読むこと」において，文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などを的確に捉え，論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において，関連する文章や資料を基に，書き手の立場や目的を考えながら，内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において，設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に，必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 ［主］積極的に論理の展開を捉えて筆者の考えを理解し，今までの学習を生かして人間の思考や学ぶことの意義について，コンピューターと比較することによって筆者の意図と自分の考えを整理し，話し合おうとしている。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
										合計 58